2013年度　中部大会参加作品

12月28日（土）2校目

滝高校　演劇部

星のオモテ　月のウラ

作　瀧　源作

連絡先
滝高等学校
〒四八三―八四一八
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二二二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五―二十五
電話（〇五六八）六一―七九九九

登場人物

放送部　ミホ
サホ
ナナミ
ユイ
ヒヨリ
ユウキ
ノゾミ
アツキ
マツ
ユウマ
加藤先生（加藤T）

天文部　亮太郎
まさき
かんた
虹介
たく
てる
あやね
古川先生（古川T）

浅井先生（浅井T）

生徒　多数

プロローグ　（幕前・花道にて）

まさき　本日は滝川高校天文部プレゼンツ、文化祭プラネタリウムへようこそ！これよりひと時の間、めくるめく星星の海への旅にご案内いたします。それでは今夜、学校から見える星空をご紹介いたしましょう！　（へたくそに）

ユウキ　わかったわかった、もういいから！

まさき　えーと、こんな感じなんですが、いかがですか！

サホ　もういいから、気持ちは、十分伝わったから、ね…

ユウキ　ちょっとこれは、きついかなあ…

まさき　やっぱりそうですよね…誰かの前で話すと思うと、緊張しちゃって。専門の、放送部の皆さんに協力してもらえたら、と思いまして。

サホ　うーん…

ユウキ　プラネタリウムのナレーションかあ…どうかなあ

まさき　コラボ企画、どうでしょう

ユウキ　天文部と協力かあ…（こそこそ）みんななんて言うかな？

サホ　私はこういうの好きだけど。ミホは何ていうかなあ

まさき　やっぱり…

ユウキ　あーいや、とにかく話はわかったから、部長に話しておくよ

まさき　やってもらえますか！

サホ　あーそうじゃなくて、裏方の私達じゃなんとも言えないんだけど。

ユウキ　部長がうんって言わなきゃ進まないから、ウチの部。

サホ　でも話してみるね、私プラネタリウム好きなんだ

まさき　よろしくお願いします。天文部の皆も喜びます。これが原稿です（渡す）

ユウキ　だからまだ早いって

まさき　いや、天文部の外にわかってもらえる人がいるなんて感激です。作った甲斐があります

サホ　プラネタリウムの機械は、もうできてるの

まさき　はい、あとは季節や時間の調整をするだけです

サホ　見てみたい！

まさき　どうぞどうぞ（話しながら去る）

ユウキ　こまったなぁ…

ユウキも2人についていく。カバンを置きっぱなしに、その上に原稿を置いていく。

入れ違いに、ナナミ・ユイが入ってくる

ナナミ　なにこの原稿、へんなの

ユイ　プラネタリウム？　…ふぅん、おもしろそうじゃん。（くすくす笑いながら密談して）

2人　ミュージック、スタート！

1

緞帳開く。派手なＢＧＭ。ユイ・ナナミは駆け込んで混ざる。

ノゾミ　さあ会場の皆様、大変長らくお待たせしましたー！

ミホ　滝高校文化祭、ステージ企画のメインイベント！　宇宙と星空をテーマにしたファッションショー「タキコレ」開幕です！

生徒　ワー！ワー！

ミホ　司会は私達放送部がお送りしまーす！

ノゾミ　参加者の衣装は自主制作、ならびに手芸部の全面協力でーす

ミホ　それぞれのアイデアを凝らした力作揃いですよ

ノゾミ　目が離せませんねえ！

ミホ　なお写真撮影はお断りしております。カタログ買ってね～！

ノゾミ　それではまず最初のエントリー！さそり座のアンタレス！

マツ衣装を着て登場。

ノゾミ　真っ赤に燃える熱い野生の男魂！

ミホ　私ファンなんですよー

ノゾミ　そーなんですか、　放送部のオシャレリーダーすっかり着こなしてますね

ユウマとヒヨリ、衣装を着て登場。

ミホ　さぁどんどん出てきます、きりん座といて座のカップルの登場です、仲が良さそうですね

ノゾミ　いや、あれは男が女に振り回されてるぞ！　いわゆる暴食系女子というやつですな

ミホ　It’s amazing!!

ノゾミ　日本も女子の時代になっていくのでしょうか。まったく、おそろしいですね

ナナミとユイ衣装を着て登場

ミホ　ではお待たせしました、今回のタキコレ最優秀候補、みずがめ座とおとめ座です！

ノゾミ　これは、なんてキレイな人たちなんだ！　SEXY GIRL!!

ノゾミ、現れた加藤先生にぱかーんと殴られる。突然中断。

加藤T　何がセクシーガールよ！　ちょっとあんたたち何してんのっ!?
ノゾミ　プラネタリウムの練習ですよ！
加藤T　これが!?　本気で!?　何なのよこれ!?　天文部から貰った台本と全然違うじゃない！
ミホ　え、なんのことですか？
ユウマ　俺たちのオリジナルです！
マツ　自信作ですよ！
2人　どうッスか！
加藤T　どうって…ええ？
ユイ　すごいでしょ。この衣装も私たちで徹夜して作ったんですよ。
ナナミ　ほらほら、見て見て！　すごいでしょ？
マツ　カッコよくないっすか!?　ほら、この衣装！

生徒たち、口々に放送部員を持ち上げるような歓声。
陰でサホとユウキは困っている。

加藤T　だから、そうじゃなくて！　待って。放送部以外の子はステージから降りて。
生徒　ちぇー
生徒　またあとでねー（など口々に言いつつ去る）
加藤T　こほん。えー、みなさん。私たちは何部ですか？
放送部　放送部でーす。
加藤T　ここはどこですか？
放送部　文化祭のステージでーす。
加藤T　放送部の、文化祭の企画は何ですか？
ヒヨリ　プラネタリウムです
ミホ　ファッションショーでしょ？
男子　しーっ！しーっ！
ミホ　ええ…？
マツ　そう！　ファッションショーとプラネタリウムのコラボレーションです！
加藤T　時代の最先端を行く（先生につねられて）…あいたたた！
ミホ　違うでしょう！　あなたたちの企画は、「放送部と」「天文部の」コラボレーションです！
加藤T　え、ちょっと、そうなんですか？　私はそんな話聞いてなくて…
ヒヨリ　ミホさん、部長なんだからしっかりしてよ。ほら、貰った原稿どこにやったの？
加藤T　知らないでーす。
知らないじゃないわよ！　ああもう、本番近いのに…！　それに、今の時間は演劇部のリハーサルのはずでしょう！　どうして放送部が使ってるの！

ユウマ　お願いして譲ってもらったんですよー
加藤T　お願いですって？　おどして奪い取ったっていうのよ！　私のとこに苦情がきてるの！

浅井先生が登場。

浅井T　まあまあまあ、ほら、みんなを巻き込んで、大きなイベントを進めてくれてるんですし
加藤T　あ、浅井先生？
浅井T　でももうそろそろ他のクラスがステージ使うんで…。
加藤T　ごめんなさい、もうちょっと待ってもらえない？　あの機械の片付けは天文部の子じゃないとできないから。
浅井T　はい。
加藤T　ほら、あなたたちも、片付けを始めなさい。

ミホ　ちょっと、どういうことなの
ユイ　いま説明するから（一緒に端の方へ）

浅井T　あの、少し聞こえてきたんですけど、ファッションショー中止になるんですか？
加藤T　もともとそんな企画、申請が出てないのよ。あの子達が勝手にやってるの
浅井T　そうだったんですか？　あー、でもウチの子達、衣装つくってましたよ。
加藤T　星とか宇宙をイメージしたファッションって…
違うのよ。もとは普通のプラネタリウムの上映なの。天文部の古川先生が熱心で…って、
マツ　あれ…？　天文部の子達はどうしたの？
ヒヨリ　あれ？　どこだっけ？
加藤T　始まったときには、いたと思うんですけど
ミホ　ちょっとー。さっきのは打ち合わせてあるのよね？
ユイ　それが、まだみたいで…。
ナナミ　待って待って！　ミホ！　打ち合わせしてないことバレたら企画パーになっちゃうよ。
ミホ　そうよ！　せっかく私達が全部手配したのに！
ユイ　そうなの？
ミホ　うん、ごめんね、ミホのいないところで決めちゃって
加藤T　いいのかなあ…
もう…。天文部さん、どこにいるのー？

天文部員たちが出てくる。

天文部　（手をあげて）は～い。
放送部　うわあっ！

マツ　そこにいたのかよ
まさき　はい、最初から
ユウマ　気づかなかった・・・
ヒヨリ　結構近くにいたんだね。

ミホ　ええと、天文部さん？　プラネタリウムのナレーションって、あんな感じでいいのかな？
天文部　よくありません！　渡した原稿と全然違います！　（など輪になって口々に文句を言う）

ミホ　（てるよしに）なに？
てる　いや…あの…なんていうか・・・困るっていうか・・・（まさきを押し出す）
まさき　おい！
ミホ　（まさきに）なに？

まさきは何か言おうとするが、圧力に負けて走って逃走。

ミホ　はぁ？
虹介　いけ！部長！（亮太郎を押し出す）
亮太郎　え、えっと、部長さんですよね。
ミホ　はい、部長の古嶋ミホです
亮太郎　天文部の村上亮太郎です。趣味は天体観測です
ノゾミ　お見合いじゃねえよ！
亮太郎　あああ、すいません。プ、プラネタリウムのナレーション、渡した原稿と全然違うじゃないですか…
ミホ　ごめんなさい、私、それ読んでなくて・・・。（放送部に向かって）どういうこと？
ユイ　えっとー、もらった原稿が全然面白くなかったから、私達で書き直しちゃった！
ナナミ　こっちのが面白いんで良いと思うんだけどな・・・　ねえ！　そう思うでしょ！
亮太郎　はい！　とっても！　・・・
てる　ちょっと、部長！
虹介　違うじゃないですか！
まさき　もっとガツンと！
たく　（ミホに）なんでこうなるんですか。さっきのアナウンス、天文部って一言も入ってなかったし！
虹介　わ、渡した原稿と全然違います。
まさき　そうだそうだ。原稿は先生にも見せたし、たしかに放送部室で渡したのに！
ミホ　私そんなの知らないよ？
てる　は？
ミホ　聞いてないもん。私が聞いてるのは、プラネタリウムをバックにして好きなことして

いいって話だけだよ。
まさき　それは話が全然違います！
ミホ　とにかくほら、私は原稿があるなんて知らなかったのよ。あんたたち誰に話したの？
虹介　サホさんとユウキくんに
ユウマ　あーそれじゃだめだよ、直接部長に話を通さないと
マツ　俺らの部はミホ先輩が回してるんだからね
亮太郎　部長さんに話してくれるって言ってたんです、けど…
サホ　ミホ、あの…原稿を貰ってて、それを元にするって、約束しちゃってて
ミホ　そうだったの？
ユウキ　みんなに話をする前にどんどん話が進んでて、言い出せなくなっちゃって…。
サホ　ごめんね、わたし達のせいで
ミホ　いいわよ、で、その原稿はどこにいったの
ナナミ　なくしちゃった
全員　えええ！
かんた　わかりました。あなたたちがどういうヒトなのかはよくわかりました。
たく　とにかくですね、僕らの原稿をもとにしてやってくれないと困ります
ミホ　ああもうわかったわよ、話を聞けばいいんでしょ。原稿出しなさいよ。なんの話をすればいいの
虹介　宮沢賢治の、星めぐりの歌、という詩です。ほら銀河鉄道の夜の。
ノゾミ　お前達らしくねえな
まさき　ええ、その。実は、一年生のあやねさんが書いたものなので…。
ミホ　あやね？
あやね　（天文部の後ろにいたところから、原稿を持って出てくる）私です。…私の書いた原稿、つまんなかったですか？
サホ　いや、そんなことはね、ミホ？（ミホに助けを求める。）
ミホ　ごめんなさい。私、元の原稿見てないから…。
サホ　その、もらった原稿と違ったイベントになっちゃって、ごめんね。それ、原稿？
ノゾミ　俺たちが作ったステージどうだった？　面白かったでしょ？
ヒヨリ　文化祭のイベントなんだし、面白いのが一番ですよねえ、先生？
加藤T　それはそうだけど…
亮太郎　そうじゃないんです！面白さなんてどうでもいい。僕らの星への愛を伝えることが一番重要なんです！
まさき　僕たちは星を愛しているんです。その愛をみんなで分かち合いたい！
ユイ　きもー
ナナミ　やっぱり関わりたくない
ヒヨリ　星の愛とかわかるわけないじゃん
マツ　オタクの吹き溜まりって本当だったんですね

ミホ　あの、天文部さん、ちょっといいですか？
ユイ　ちょっと、ミホ。（ミホを引っ張って連れてくる）
ナナミ　あんまり天文部と関わらない方がいいよ。
ヒヨリ　ミホ先輩まで変な目で見られちゃいますよ。
ミホ　でも、打ち合わせしなきゃいけないみたいだしさあ…
ユイ　そんなの先生か男子にやらせとけばいーの！
ミホ　うん…
加藤T　さっきから何コソコソしてるの？

ミホに、言え、という視線が送られる

ミホ　…あの、先生。やっぱりこの企画、ファッションショーでいけませんか
加藤T　そんなことできるわけないでしょ。天文部の古川先生も楽しみにしてらっしゃるし、あの投影機だってせっかく作ったのに。
サホ　たしかに、キレイですよね。
ユウマ　うん、俺たちの引き立て役だよなっ！
加藤T　そうじゃないでしょ！この企画の主役は、星なのよ？
マツ　おいおい、星よりキレイな女の子がここにいるじゃねーか。ええと、あやねさんだっけ？
天文部なんかやめて放送部おいでよ。
あやね　嫌です。
マツ　よかったら一緒にファッションショーに…
あやね　嫌です。
ユイ　ちょっと、せっかく誘ってあげてんのに。あの子。感じ悪すぎ。
あやね　部長。やっぱりやめましょう。この人たちにはわかってもらえそうにないです。
亮太郎　でもせっかくここまで作ったんだし…
まさき　それに、やりたいって言い出したのあやねさんだろ？
あやね　それは、そうなんですけど…でも…
ミホ　機械を作ってくれたのは感謝するわ　ありがとね
ユイ　私達が有効に活用してあげるから♪
ナナミ　ホントありがとね～。じゃあねー
亮太郎　そうはいきません。僕らのお願いした原稿、全く使ってもらえないなら考えがあります
ヒヨリ　どうするっていうのよ
亮太郎　プラネタリウムの投影機は使わせませんからね！
マツ　ええ！　それは困るよ
たく　だったら話を聞いてくださいよ
ナナミ　いやよ、好きにさせてもらうからね

加藤T　だめです。とにかく、プラネタリウムを「協力して」作りなさい。
ユイ　みんなファッションショーでやりたがってるのに？
加藤T　やりがたってるのはあんたたち二人だけよ。ミホさん、台本大急ぎで書き直してもらえない？
ミホ　…はい、分かりました。
加藤T　大変だと思うけどお願いね。みんなもよー？
加藤T　天文部の、部長さんは？
亮太郎　ここですけど。
加藤T　いろいろとごめんなさいね。あの子達言い出すと聞かないから、不愉快なこともあると思うけど。協力して。
亮太郎　協力する気はなさそうに見えますけど。まあ、いいです。がんばります。
加藤T　…よろしくお願いね。
あやね　（加藤Tに原稿を渡して）これ…失礼します。
加藤T　ああ、原稿？

浅井先生登場。

浅井T　加藤先生、そろそろ…。
加藤T　あ、すみません。片付け急いで。ああ、天文部さん、プラネタリウムの片付け、お願い。
天文部　はい。

天文部員たちが機材の片付けをし、放送部も適当に荷物を持ってはけていく。

2

浅井T　おつかれさまです。
加藤T　先生もすいません、放送部が手芸部の子達に迷惑かけてしまって
浅井T　いいんですよー。でも、プラネタリウムをやろうと言い出したのは天文部の子たちだったんですね。てっきりウチの子達みたいに放送部に言われてやってたものだと
古川T　（不意に現れる）いやいや、今年はなんだか、みんな張り切ってましてねえ…
加藤T　古川先生
古川T　加藤先生、どうですかプラネタリウムは
加藤T　そのー、ちょっと方向性がかなり、放送部と天文部でズレちゃってるみたいで。
古川T　ありゃ、そうですか。
加藤T　天文部さんがせっかく原稿も書いて下さったのに、なくしてしまったようなんです。

古川T　放送部は賑やかな子達ですから、ウチのじめーっとした連中と一緒じゃ不満かもしれませんしねえ。
加藤T　いえ、そんなことはないです。もう少し協力して企画を進めるように、私からも言っておきますので。
古川T　ウチの連中は、ああいう扱いされるに慣れてますから、別にいいですよ。
加藤T　すいません。
古川T　ああ、いやいや、先生が謝ることじゃないですよ。まー、急に似合わないことをし始めたから、ご迷惑をおかけしますけれど。どうかよろしくお願いします。
加藤T　はあ。わかりました…

舞台の片側、天文部エリア。

まさき　ああもうなんだあいつらむかつくーっ！
かんた　放送部のやつらときたら、星の美しさも宇宙の神秘もまるでわかっていない！
虹介　ああいう頭の軽い連中に、高尚な天文学のよさは通じないんです
たく　宇宙の愛は彼らには届かないんですね…
あやね　はいはい、そんなことばっかり言ってないで。
亮太郎　あやねさんごめんね。
あやね　いえ、いいんです。…まあ、少し残念ですけど
てる　でもさあ、どうする
亮太郎　放送部を頼らずに、僕たちだけでやりますか…？
虹介　無理でしょう。今こうして身内だけのときならともかく、他の生徒の前で喋れますか
みんな　・・・無理。
かんた　僕は平気ですが
亮太郎　やめておけ。
まさき　…ああ、やっぱりあんな奴らに頼むじゃなかったかなあ
たく　言ったじゃないですか。ああいう、スクールカーストのてっぺんでふんぞりかえってるような連中に、僕らみたいな一番下の部の話が聞いてもらえるわけ無いってでもせっかくプラネタリウムやるんだからいいものにしようって、みんな納得しただろ
亮太郎　プラネタリウムじゃなくなってるから、元も子もないけどね
かんた　でも僕らだけでプラネタリウムやったとして、見に来てくれる人はいないから…
亮太郎　誰も見に来てくれないんじゃ、やっても意味がないですよね…
てる　じゃあやめますか
あやね　だめです！
かんた　でも放送部に任せたら…
てる　ああなっちゃいますね。
虹介　それは…いやです。
あやね

あやね出て行く。古川先生登場

古川T　ああ、お前たち。元気？　作業進んでる？
てる　先生！　放送部のやつらになんとか言ってやってくださいよう
古川T　いやー先生も忙しくってねえ、ほら生徒会の方もあるで。
虹介　そんなあ…。
古川T　それよりお前ら部活だけじゃなくて、クラスの方も手伝ってるか？
かんた　いえ…その…
まさき　俺たちはクラスに居場所がないので…
古川T　あーすまんね。でもお前ら、今年がんばっとるじゃないか。
たく　そうですか？
古川T　そりゃあ、お前、毎年勝手に星見に行ってるだけだったで、それと比べたら、えらい進歩だよ。
亮太郎　ありがとうございます。
古川T　お前らもかわいい後輩のためとなると、お前らも男らしいとこがあるんだね。
亮太郎　先生、そういうんじゃありません。
てる　え？違うんですか？
虹介　お前だけだよ、それ。
古川T　ま、お前らなら大丈夫だよ。（まさきに）あー、ちょっと話がこじれたみたいだけどな、気にするな、な。放送部としっかり話して。最後まで、頑張れよー（去る）
亮太郎　はい…。
てる　部長、ここは威厳を見せるときです
たく　先輩、放送部まで行きましょう。
虹介　バシっと言ってやってください、ちゃらちゃらと浮かれている放送部のやつらに！
亮太郎　おおおおおおう。まままかせとけ。いいいってくる
まさき　俺もいってくる
かんた　だめかなこりゃ…

3

放送部エリア

ユイ　何なのよあいつら。

ナナミ　ねー、せっかく私達が作り直してやったのにさー。
ユウキ　まあ、天文部さんからコピーは貰ったからまたみんなで作り直そ。
ユイ　なんで天文部と協力しなきゃなんないのよ。
ナナミ　なんだかんだ、ミホはいい顔するんだからー。
ミホ　まあしょーがないでしょー、先生の前なんだから。せっかくの出番がなくなったらたまんないもの。サホ、なんで話を受けたときにしっかり私に言ってくれなかったの
サホ　ごめん、でもミホは忙しそうだったから
ユイ　いいのよ、どう読んだってつまんなかったしさ
ミホ　ユイは読んだの
ユイ　うん、でもあれじゃあね、つまんなくって寝ちゃうわよ
サホ　私は、結構好きだったんだけど
ナナミ　ふーん、こういうの好きなんだ
ユイ　だったらサホが天文部に行けばいいのに
ユウキ　そんなこと言うなよ、リクエストの集計とか、ほとんどサホがやってるんだぞ。
ユイ　はーい
ミホ　言ってくれたらもう少し考えたのに
サホ　ごめんね
ノゾミ　でももう話を進めちゃってるしなあ。
ヒヨリ　ファッションショーどうしますか？
マツ　手芸部に頼んだ衣装も、もうできてきますよ
ユウマ　いまさら断るのも…
マツ　いいんだよ、どうせあいつらなら…（とか、ざわざわ）
サホ　ねえ、みんな、先生に相談しろって言われてるしやろうよ
ヒヨリ　サホ先輩、先生の言うこと全部聞く必要なんてないですよ
ミホ　サホはいい子だもんね
サホ　そういうわけじゃないよ
ナナミ　そもそも、サホがみんなに相談しないで、変な話を受けたのが悪いんじゃない
サホ　それは、そうだけど…
ユイ　あんなやつらと一緒にされたら困るし、あたしたちメインでやってこうよ
ヒヨリ　そうですよ。あんなかっこ悪い奴らと一緒じゃ、放送部の名がけがれます！
マツ　そうそう、天文部との合同企画なんていったらクラスの奴ら呼べないって
ナナミ　この企画なら私達も目立てると思ったのになー
ユイ　プラネタリウムのナレーションだけなら、ミホひとりでできちゃうもんねー
ナナミ　ファッションショー、いいアイデアだと思ったのになァ
ミホ　放送部のメンツがあるもんね、ファッションショーの企画で押し切らないとね！
放送部　さすが部長！

加藤先生、登場。

加藤T　どう、ちゃんとやってるー？
サホ　あ、せんせー。
加藤T　ちょっとやりすぎたんじゃないの？天文部の子達、怒ってたって古川先生もおっしゃってたわよ。　あのプラネタリウムだってせっかく作ってくれたのに。天文部の子達にも納得してもらわないと。プラネタリウムの機械、出してもらえないんでしょ
ヒヨリ　機械だけ借りるわけにはいきませんか
加藤T　そういう勝手なことばっかり言ってると、文化祭に参加できなくなるわよ？
ステージだって、もともと天文部が取ってる枠なんだからね。あなたたちがオマケなの
ナナミ　オタクのオマケ。サイアク
ユイ　でも、あんなにつまんない企画やったってお客さん寝るだけですよ。
ナナミ　そうそう、だってあれ…
加藤T　あなたたちのモデルごっこも天文部さんの原稿と同じようなもんよ。
ミホ　あ、ミホさん、原稿の方はどう？　ちゃんと進んでる？
えっと、その…先生。面白い企画になるようにってナナミやユイも考えてくれてたんですけど…なんとか、アイデアをいかせないでしょうか、ファッションショー…
加藤T　さっきからダメだって言ってるでしょう。ミホさんまで何言ってるの？
ミホ　でも…
加藤T　任せておけば大丈夫だと思ってるから。よろしくね。
ミホ　はい。がんばってみます。
加藤T　じゃあ私は古川先生と相談に行ってくるから。よろしくねー（去る）
ユウマ　どうする？
マツ　天文部の話、残さなきゃいけないんだよな
ユウマ　あー、声かけちゃった連中になんて説明しようか…
ノゾミ　でも、もとの原稿、これはこれで悪くないかも
ナナミ　ノゾミ？
ミホ　専門用語ばっかりで読みにくくない？
ノゾミ　そういうところは飛ばして読んだ
ユイ　それじゃだめじゃん
ノゾミ　でもいいこと書いてあるって。ほら、語る内容に思い入れがありすぎるとさ、たとえば俺がどれだけミホを好きかってことを説明しようとしても喋れば喋るほどわけがわかんなくなっていくみたいにさあ…
ヒヨリ　ノゾミ先輩、何か悪いものでも食べたんじゃないですか？
ノゾミ　わあ、そんなことないって。
サホ　あの、私もそれ、いいって思うの。天文部を今まで偏見で見てたのかなって。
ねえ、ミホも読んでみてよ

ミホ　ふうん、二人がそこまで言うなら・・・この天文部の原稿をもとにして、みんなでやれるように書き直してみよっか？　わたし一人のナレーションじゃなくって、大勢出られるようにしてさ

ユウキ　ああ、それならあいつらも納得するかもな。ちょっと考えてみようぜ。

ミホ　相談してみよう、ね。それでさ…

ナナミ　本当にやることになりそうね

ユイ　ミホも考え始ちゃったし

ナナミ　ねーノゾミ、ノゾミはファッションショーのＭＣやりたいんじゃなかったの？

ノゾミ　いや、まあ、そりゃあ残念だけどさ。ミホが台本書き直すならそっちでも良いかなって。

ナナミ　ふーん…結局ミホについてくのか

ユイ　台本とか衣装とか、頑張って作ったのに全部無駄になっちゃった。

ナナミ　あーあ…。

生徒達が登場。

アスカ　ねえ、ファッションショーどうなってるの

リンゴ　天文部が文句いったんでしょ？

ナナミ　そうなのよ、聞いてよ、もう・・・（ぐだぐだ）

ダイキ　もう、プラネタリウムなしでいいじゃん。あってもなくても一緒だよ。

ユイ　そういうわけにいかないのよ、あのステージ、プラネタリウムで天文部が申請してるんだって

ダイキ　え、そうなの？

アスカ　あんたたち企画横取りしてたんだ、わるーい

マツ　天文部の連中をどうにかしないとファッションショーできないんだって

ユウマ　だから頼んでた衣装とか、ちょっと待っててくれないかな？

ヒロキ　ちぇ、せっかくクラスさぼってこっち手伝いに来てたのにな

パーシ　オタク連中と仲良くやれよな

ヒヨリ　変なこと言わないでよ。あんなのと一緒にしないで

ミホ　ちょっと、うちらこれマズくない？

ユイ　ファッションショーできないと放送部バッシングはんぱないよ。

ナナミ　プラネタリウムの投影機だけ、なんとかして使わせてもらわないと

ユイ　使わせてもらうんじゃないのよ、使ってあげるの

サホ　先生もやる気だし、それは無理だよ。

ユイ　それだったら、天文部の方がやる気なくしたら、どうかな？

ナナミ　え、なに。ユイすっごく悪い顔してるよ。

ユイ　天文部なんて、ちょっと凹ましたら絶対引っ込んでくよ。少しきつく言ってやれば大人しく引っ込んでいくって。
マツ　あいつらがやる気なくなったら、ミホ先輩は打ち合わせ行かなくて良いですし！
ミホ　ちょっと、さすがにそれはまずいよ。
ナナミ　いいのいいの、ミホは。ここは私達に任せといて。
ユイ　サホもユウキも責任とれないなら余計なことしないでよね。
ノゾミ　まあ、待てオマエラ。プラネタリウムのＢＧＭでバンドとかどうだ、かっこよくないか。
ユウマ　いいですね
ノゾミ　俺がカスタネットやるから、お前らがハーモニカと、リコーダーと、…
ユウマ　嫌ですってそんなのー！
マツ　やっぱり俺達もファッションショーがいいです！
ユイ　でしょ！　ちょっと計画立てよーよ、勝手に進めちゃおう
マツ　じゃ、俺達は投影機、こっちに持ってきちゃいますんで！
ユウマ　おー！
ノゾミ　待てこら！　ピアニカならどうだー！

4

放送部室に、亮太郎・まさき・かんたが乗り込んでくる。

亮太郎　失礼します！
放送部　きた！
亮太郎　お話があります！
ユイ　ないです！
亮太郎　そうですか失礼しました！
天文部　部長！
亮太郎　ああ…あの、プラネタリウムのことで、お話が
ユイ　ありません
亮太郎　ですよね
天文部　部長ー！
亮太郎　あー！　あります！　ええと、元の原稿のままで、手伝ってもらえないでしょうか？
ユイ　嫌です
ナナミ　プラネタリウムなんて、まともに聞くヒトいると思ってんの？
ユイ　みんな寝るだけだって
ヒヨリ　ファッションショーの方が絶対面白いですよ

亮太郎　そうは言ってもですね！　あの原稿、僕らなりに一生懸命書いたんですよ！
ヒヨリ　一生懸命ならいいってわけじゃないですよね。
ナナミ　うちは放送部なの。どうやったらいいイベントになるか考えてやってるわけ。
ユイ　自己満足でやってる天文部とはワケが違うの。黙っててくれない？
亮太郎　でも、お願いしたときにはそんな話ではなくって、ですね。
まさき　そうです、こんな風にしてもらうために頼んだんじゃありません
ユウキ　（天文部を気遣って、天文部に近づきながら）あ、ごめん。俺が軽く引き受けたから…
ヒヨリ　天文部は星うつしてくれたら、あとは放送部でできますもんね
ナナミ　天文部は天文部らしく、暗―い客席から見てればいいのに
まさき　ほ…星のことをわかってないままやったって、面白くたって、中身が空っぽなんだよ。
　　おまえら、空っぽなんだよ！
ユウキ　おい、落ち着けよ！
ナナミ　なによ！オタクが！　あんたたち周りから馬鹿にされてんのわかってる？
ノゾミ　たかが文化祭の出し物だぜ、遊びにそんなマジになるなって…
まさき　遊びだから本気でやるんだよ！そんなこともわかんないのか！

詰め寄るまさき、逃げる放送部員たち。まさきがユウキを誤って殴ってしまう。
ストップモーション。袖からプラネタリウムの機材を押してのんきにマツ・ユウマが入ってくる。

3人　よいしょっと（置く）
マツ　おう、ちょっと休憩すっか　（プラネタリウムに近づいて）
ユウマ　なんかすげーなー
マツ　つか運びにくいな
ユウマ　よし、一旦バラして運ぶか
マツ　いいねえ、それ

あやね・てる・虹介・たくが現れ、様子に気付く。

あやね　あれって放送部…
てる　僕らのプラネタリウムになんかしてますよ

投影機の部品が外れる。

マツ　あっ！
たく　お前ら～!!　何壊してんだ～！
あやね　私たちの投影機に勝手に触らないでください！

マツ　待て、待て!!　俺らは壊そうとしてたわけじゃない!!　仕組みを知りたくてさ
たく　こっちが一生懸命作ったのに、壊さなくたっていいじゃないですか！
ユウマ　いや、違う。壊そうとしてたんじゃない。ちょっと持っていこうとして…
虹介　じゃどこに持っていくつもりだったんですか！
マツ　あのなあ、俺たちが使った方が絶対うまくいくから任せろって
あやね　そう言って壊してるじゃないですか！
たく　今まで散々、天文部のことバカにしてきたくせに、信じられるわけないですよ！
てる　こんなことまでするとは思ってませんでした
あやね　放送部のひとたち、本当にやりたくないんですね
マツ　いや、だから俺たちは…
てる　もういいです、話したくありません！
虹介　これ、部長に伝えないと
あやね　私行ってきます。
ユウマ　だから、本当に違う誤解なんだって
たく　いいから、早く部長をよんできてください、あやねさん！
マツ　待てって！

あやね、うなずき走り出す。追いかける放送部員。
放送部の部室。

サホミホ　大丈夫？
まさき　すいません、そんなつもりじゃあ…
ユウキ　大丈夫、大丈夫。ころんだだけだから、なんともな…
ユイ　ちょっとあんたたち、こっちが言葉で相談して話を進めようとしてんのに、暴力に訴えるんだ
ナナミ　サイテー信じらんなーい。暴力沙汰なんてばれたら、やっぱりプラネタリウムも中止よね
ミホ　ちょっと、いまのはあんたたちの言い方も…
ユイ　ミホは黙ってて。ねえ、天文部…今のことは内緒にしといてあげるからさ。プラネタリウムの機械、私達に使わせてよ。中止になってなんにもできないよりは、そっちのほうがいいと思わない？
かんた　どうしよう
亮太郎　そう言われても…
ナナミ　何よ
亮太郎　…わかりました。プラネタリウム、お任せします。
ユイ　そうよね～。　まあその方がいいわよね。
ナナミ　それなら、ファッションショーやるって、もう全校放送で流しちゃおうよ。
ヒヨリ　準備とかもあるし、伝えるのは早いほうがいいですもんね

ナナミ　ユウキ、放送の準備してよ
ユウキ　おい・・・　（ヒヨリが準備する）
ナナミ　「放送部からお知らせします。文化祭２日目に行われるファッションショーですが、天文部がプラレタリウムを中止したため、予定通り・・・」
まさき　あの・・・僕・・・
ユイ　ナナミ、天文部にもしゃべらせようよ。先生にあとでいろいろ言われるの、めんどくさいし。
ナナミ　「実行することになりました。そのことについて天文部から連絡があります」ちゃんと言ってよね。
まさき　・・・天文部からお知らせします
あやね　部長？
亮太郎　ああ、あやねさん、ちょっと、その、外で待っててくれないかな。
あやね　はい・・・。
まさき　・・・今から三百年前、天文学者のガリレオ・ガリレイは夜空の星を観察し、地球が世界の中心ではないことに気がつきました。天動説が当たり前の時代に　地動説という独創的な真実を発見したガリレオは、しかし、誰にも理解してもらえずに、自分が間違っていると無理矢理認めさせられたんです。でもそのとき彼がつぶやいた言葉は現代にも伝わり、今ではガリレオが正しかったことを誰もが知っています。・・・声の大きな連中の言うことがいつも正しいわけじゃない。ガリレオは言った。「それでも地球は回ってるんだ」
加藤Ｔ　ちょっとあんたたち何してんのよ！

5

シルエット。大勢の生徒達が噂話をしつつ通り過ぎていく。
放送部員は去り、天文部員は隠れる。

生徒１　ねえ聞いた、ファッションショー中止になったんだって！
生徒２　放送部が仕切ってたやつでしょう？
生徒３　天文部ともめたんだってー
生徒４　私も出たかったのにな～
生徒５　プラネタリウムになるの？
生徒６　それもやらないらしいよ
生徒７　なんか変な放送してたよね
生徒８　そうそうわけわかんないの
生徒９　でもあれって放送部がやらせたんでしょ

生徒10　なんだったんだろうね
生徒11　放送部がプラネタリウムの機械壊したらしいよ
生徒12　それとあの放送なんの関係があるの
生徒13　オタクの考えることなんてわかんないよ
生徒14　放送部も天文部と同レベルだったんだねー
生徒　あはははは・・・両方とも格好悪い・・・

隠れていた天文部員達が出てくる。

てる　言われちゃってますね…
あやね　あの、ごめんなさい。私のわがままのせいで。
亮太郎　あやねさんが気にすることじゃないよ。
たく　もともとこんな扱いだったのが、目立ってしまっただけですから。
まさき　あやねさんこそごめんね。僕らみたいな役に立たないのしか天文部にいなくて。
あやね　いえ、いいんです。もともと、私がプラネタリウムをやりたいって言い出さなければ、こんなことには…
亮太郎　いいんだよ。あやねさんが楽しそうに星のことを話すのを聞いて、それに合わせて作るのは僕らも楽しかったし。
かんた　最後まで出来なかったのは残念だけどね
あやね　あの、プラネタリウムは放送部にお任せしませんか？
虹介　良いんですか？あんなにやりたがっていたのに。
あやね　私は星が好きな人が側にいてくれるだけで十分ですから。興味のないヒトに無理に聞かせることないですよね…
てる　あやねさん…？
あやね　あ、すみません。先輩、全校放送のガリレオの話、かっこよかったです。私の書いた原稿なんかよりずっと。私、あれで満足しましたから。ありがとうございました。…えっと。そうだ。プラネタリウムはあきらめて私たちは、夜間の星座観測にしませんか？
亮太郎　文化祭の期間中は、かえって夜の取締りが厳しいからね…。
まさき　それにうちの学校からじゃ見えないよ
亮太郎　夜でも明るいからなあ
かんた　それで、プラネタリウムをやることになったんだよね
虹介　やっぱりプラネタリウムやりましょう
たく　でも学校中でこんなに悪く言われてるのに、出来るのかな…
まさき　やっぱり、どうにかして…
あやね　もういいんですよ。行きましょう。

ミホ　プラネタリウム壊したの？
マツ　だから違うんですって！　事故なんですよ、事故
サホ　でもうわさになってたよ。放送部が天文部に暴力振るったとか、機械を壊したとか
ユウマ　そんなことするわけないですよ。
ミホ　人の物壊すなんて間違ってるよ。
ユウマ　だから誤解なんですよ。何回言えばいいんですか。
ミホ　へぇー、そうやって2人とも知らんぷりするんだ。
マツ　何でそうやって俺たちの言うこと聞かずにうわさの方を信じるんです。
ミホ　いつもふざけてばかりだから、信じられないよ。
ユウマ　先輩達だって、全校放送で流れたのはなんですか、あれ
マツ　噂っていうならそっちのほうが広まってますよ
ミホ　そうだけど。天文部の子達はすぐに謝ってくれたし、大事なプラネタリウムを私達に任せるって言ってくれたんだよ。あんたたちよりマシよ
マツ　その天文部のせいでこうなってるんじゃないですか
マツ　もういいよ、いこうぜ。
ノゾミ　ちょっと待てよお前ら、少しは放送部全体のことを考えてだな、気配りとかをおぼえ21
大人への第一歩を踏み出すことを覚えて…
ユウマ　先輩達で勝手にやってください
ノゾミ　おいおい、もっと大人になれよ、もっと熱くなれよ！
マツ　先輩達でやってください、プラネタリウム
ノゾミ　え。
ユウマ　今からどっか入れる企画あるかなあ？
マツ　ファッションショーにかかりっきりだったもんなー
ノゾミ　…ごめんな。あいつら止められなくて

ユイ・ナナミ・ヒヨリが放送に関して文句を言いながら入ってくる。

加藤T　あんたたち、どこ行ってたの？
ヒヨリ　あの放送のせいで、放送部まで悪者にされてるんですよ。
ナナミ　企画が中断で、あっちこっち謝りにいかないといけないし。もうサイテー
ユイ　ホント、なんで私たちまで悪者にされなきゃいけないのよ。
ヒヨリ　天文部のせいで散々です。
ユイ　サホとユウキで行って来てよ、あんたたちのせいでしょ
ユウキ　おまえらなあ、…

加藤T　自分たちは悪くないと思ってるわけ？
ナナミ　悪くないですよ。変な放送を勝手に流されて、私達は被害者ですよー？
ミホ　ちょっと、マイク渡して放送させたのはあんたたちでしょ
ユウキ　そうだよ、あんな風に追い込まれたら、誰だってキレるに決まって…
ユイ　ああでもしなきゃ、天文部は引き下がらないじゃない。私達の大事なイベントのためよ。
ナナミ　ねえサホ、天文部と仲良くなったんでしょ？　機械が直ってるか聞いてきてよ
ユイ　あれがないと話が進まないからさあ
ヒヨリ　先生、ステージの許可って…
加藤T　こんなことしてまだやれると思ってるの!?　中止です！
ユイ　そんなあ、せっかくここまでしたのに
加藤T　あなたたち、自分のしたこと分かってるの？　天文部の子達も、学校の機材も、あなたたちの好きにしていいなんて思い上がりは許せません。
サホ　天文部に申し訳なくなってきた…。
ミホ　今更そんなこと言っても遅いよ。
ナナミ　何それ。みんな天文部の味方する気？
ユイ　放送部のために私達は…
加藤T　いい加減にしなさいよ。天文部さんにどこまで迷惑かけたら気が済むの？　天文部の子達にだって気持ちがあるのよ？　もう少し考えて行動しなさい。
古川T　加藤先生、ちょっとよろしいですかな
加藤T　すみません……ちゃんとやっとくのよ。
サホ　やっぱ、先生も言う通りやっぱりやり過ぎだよ。プラネタリウム作ってくれたのは天文部だし。
ミホ　天文部だって協力してたのに、あんな風に恥かかせるのってあんまりだよ。
ナナミ　そんなに天文部の味方するなら、もういっそのこと天文部入っちゃえば？
ミホ　そんなこと言わないでよ。私だってずっと、放送部で頑張ってきたんだから。
サホ　そうだよ。ミホがいてくれたおかげで放送部が回ってたんだしさ。
ナナミ　放送部にはミホがいれば十分でしょ？もう、私、やめようかな。
ユイ　じゃあ、あたしも～
ミホ　待ってよ。勝手なこと言わないでよ。部長に推してくれたのもユイだし、台本だってみんなが書いてきてくれたのを読んでたんだし。
ナナミ　私たちの書いたのは気に入らないんでしょう
ユイ　好きなように書き直してよ
ナナミ　サホだって台本書かされても、実際に喋るのはミホばっかりで、つまんなくない？
サホ　私は書きたくて書いてるだけだし、別にそんなこと思ってな…
ユイ　ミホの忠実なしもべってとこかー。

サホ、ユウキ、何か言いたげにしつつ、無言で出て行く。

ヒヨリ　もう、やめましょうよ。
ナナミ　先生だって放送部の仕事がくるたびに、ミホ、ミホってなんなのよ。ミホばっか…
ミホ　そんなことないってば！…
加藤T　ちょっとあなたたち、外まで聞こえてるわよ。本当に何してるの。
古川T　まあいいんです。天文部の子たちも、自分たちのセンスのまずさがちょっとは
　わかったんじゃないですかねえ。
加藤T　…あの、放送部がこれ以上迷惑をおかけしても申し訳ないですし、天文部さんだけでやっ
　ていただいた方がいいんじゃないでしょうか
古川T　ううん。それもそうなんですけどね。
　周りの目を気にしてるところもあるんですかね、気の弱いやつらですから。自分達だけで
　はできないと、思い込んでしまってるようでしてねえ。このままだと中止かな…と
　使わないんだったらプラネタリウム貸してくださーい
ユイ　ちょっと。先生の前で失礼よ
加藤T　最初からずっと天文部とはやりたくないっていってるじゃないですか
ナナミ　いやあ、ひどい言われようだなあ。でも、使ってもらってもいいと思うんですよ。
古川T　はあ?あの、本当ですか?
加藤T　でもプラネタリウムの機材、手間もお金もかかっているんじゃありませんか?　この子達
　の好きにさせてしまうのは…
古川T　いやいや、まあ。ね。確かにせっかく作ったんです。しまいこんでおくよりは使ってやっ
　たほうがいい。それで今の話なんですが。天文部の子たちに決めさせてやってくれません
　か。どうなるにせよ、また彼らと話をしてやってください。では。
加藤T　こういうことだから、誰か、天文部の部室、行ってみてくれる?
ユイ　あたしやだー。このまま先生がいってきてよ
加藤T　ダメよ。古川先生があなたたちの様子を見て言って下さったことなんだから。これぐらい
　はしたらどうなの?
ユイ　えーー。
ナナミ　謝って使わせてもらうってこと?　むかつくなあ
加藤T　あんたたちがしたことを振り返って、天文部の子たちが使っていいって言ってくれるか、
　ちゃんと聞きに行きなさい。
放送部　はーい…
ヒヨリ　誰が行きますか?
ミホ　私、行ってくる

期待を持った放送部員たちが静かに騒ぎ、先生に睨まれる。

ミホが出て行き、ユイ・ナナミ・ヒヨリ・ノゾミは去る。
ミホ、ユウキ&サホを発見する。

ミホ　何してるの？　あんたたちも天文部に用？
ユウキ　あいつらの気持ちもさ。少しその、汲み取ってやってくんないかな。
サホ　天文部も頑張ってたんだし
ユウキ　俺達のせいで、ミホやみんな悪者になっちゃって、ごめん
サホ　でも、お願い。このままじゃどんなイベントでも楽しめないよ
ミホ　…考えとく

7

亮太郎　ベントラーベントラースペースピープル、ベントラーベントラースペースピープル…
ミホ　…あの。
亮太郎　あああ、放送部の。古嶋さん（マサキは隠れる風に）
ミホ　えーとその、今の、何ですか
たく　宇宙人と通信する由緒正しい儀式です
ミホ　そうなんですか…あの、プラネタリウムのことで、相談に来たんですけど…
虹介　ああはいはい。何ですか
ミホ　あの…プラネタリウムって説明するとき時計回りですか?反時計回りですか?
亮太郎　それはですね、地球が自身の地軸の周りを回転する高さによりますが、回転方向は東向きで、地軸の北方向を正とすると右回りです
虹介　北極星からは反時計周りに見えます
亮太郎　ちなみに自転周期は２３時間５６分４０９８９０３６９１秒です
虹介　ちなみに地球の自転は国際地球回転及び、座標系事業に監視されています
ミホ　自転のことなんか聞いてませんっ！！
亮太郎　すいません
ミホ　なんなのよあんたたちは！　人が怒鳴られるの覚悟して謝りに来たのに、どうしてそんなヘラヘラしてんの！
かんた　あ、その、緊張してまして
ミホ　…あのね、放送部ではさ、やっぱりファッションショーにプラネタリウムの機械を借りようって話も出てるんだけど
たく　それは困ります。　まだ、ぼくらも、その、諦めてませんから
ミホ　やる気はあるんだ

虹介　あります。ただ、僕らじゃナレーションまでできないから、お願いしたんですけど…
ミホ　できないかな。そんなこともないと思うんだけど。そういえば、あの子、いないのね。
てる　あやねさんは、宵の明星を見ると言って、屋上に上がってます
ミホ　…？　そうなんだ。一人で？
虹介　はい。僕たち、部室の鍵閉めるんで、あやねさんが帰ってくるのを待ってるんですよ
ミホ　ふーん。…ねー、天文部が今年はりきってるのってさ、あの子のためなの？
亮太郎　はい
ミホ　正直ねえ…。ね、あの子のこと教えてよ。あなたたちががんばる理由が知りたいな
てる　アヤネさんは、星が本当に好きなんですよ
ミホ　それは分かってるわよ。…でも、そうだね。そこがわかんないんだ。
亮太郎　どこがですか？
ミホ　星が好きって、どういうことなのか。うん。それに実感がわかないから、私も…放送部のみんなも、好き勝手なことしか言えないんだと思う。
亮太郎　ねえ、あなたたちも、なにか面白い話ない？　あんまりマニアックじゃないやつ
ミホ　急に言われると…。え～っと、じゃあ逆におうかがいします。古嶋さんは星ってどう思います？
亮太郎　綺麗だとは思うけど、名前ひとつひとつ覚えられないし。考えたことないかな。悪いけど、今まで興味なかったから。
亮太郎　普通の人はそうですよねえ。ああでも、有名な星のひとつかふたつくらいは、知らない ですか。プロキオンとか、スピカとか、レグルスとか…（ミホの反応がないのを見て）
ミホ　じゃあ、北極星とか
亮太郎　あ、北極星くらいなら聞いたことあるよ
ミホ　ああ、よかった。じゃ、その話にしてみましょう。
亮太郎　北極星っていうのは、いつも真北に輝く不動の星として認識されていますが、そんな北極星でもわずかに動くということを確かめた人がいたんです。その人はときどき窓から見ていた北極星が窓の格子に隠れるときがあるからといって、北極星は動くんじゃないかと疑いを持ち、一晩中観察したところ、間違いなく北極星が動くことを確かめたんです。
ミホ　暇だったんだねえ
亮太郎　そうかもしれませんが。すごいと思いませんか
ミホ　何が？
たく　昔の人々はただの星に興味を抱いて、寝る間も惜しんで観察したんですよ。その星ひとつひとつに名前をつけたり、並び方から星座を考えたりしたんです
亮太郎　なんと言うか、綺麗だなと思ったり、ロマンを感じたりするのは、見た人が想像力を働かせるからなんです。
虹介　ロマンだけじゃありませんよ。そんな風にただ見るだけじゃなくて、月の満ち欠けからカレンダーを作ったり、海を渡るときの方角を知ったりしたんです。人類は星と共に歩んで…

亮太郎　ああ、とにかく、ですね。星のことを知ったら、もっと知りたくなる。知ったら、見てるだけじゃ満足できなくて、もっと近づきたくなる。好きってそういうことです。

まさき　（隠れていたが、我慢できず出てくる）それで、ロケット造って、月まで行っちゃったんです。月の裏側がどうなってるか見てみたいって！

亮太郎　セカイはオタクが動かしてるんですよ！

ミホ　あ…っと。

まさき　…その、放送部室ではすいませんでした。あんな騒ぎを起こしてしまって。

ミホ　こっちこそ、ごめんなさい。その、みんなを止められなくて。

まさき　僕ら、星のことになると、熱くなっちゃうものですから…

ミホ　それはよくわかった。でも、天文部もいいこと言うじゃん。ちょっと感心したよ

亮太郎　見るヒトが見れば、星にも月にもいろんな意味があるんです。…そういうのってすごくないですか？　…どうですか？

ミホ　…やっぱり星より月のほうが好きかな。目立つもの。

亮太郎　古嶋さんらしいですねえ

ミホ　はぁ？

亮太郎　いえなんでも。でも、月は自分では光ってません。太陽の光を反射して光ってる、だけで裏側は真っ暗なんです

ミホ　それくらいは知ってるってば

亮太郎　すいません。…とにかく、星というのは、ただ光ってるだけなんです。どう見られる、か、好かれるとか嫌われるとか関係なく、ただ光る。それが星です

亮太郎　…なんの話をしてたんだっけ？

まさき　あやねさんです。

亮太郎　そうだ。あやねさんのことでした。あやねさんは、星が好きで天文部に入ってきたんですよ

ミホ　あんたたちもそうでしょ

まさき　どうでしょう。僕らは、なんとなく居心地のいい場所をみつけて集まってただけなのかなって。

かんた　だから、目を輝かせて星のことを語るあやねさんは、ちょっとショックでした。

たく　あの子が見ている星空は、僕らが見てる空とは違うのかもしれないってくらいに。

てる　あやねさんの話を聞いて、僕らよりずっと星に詳しくて、星が好きなあやねさんの目を通して見る星は、僕らも綺麗だと思ったんです。

まさき　それで、僕らも、あの子のためなら一歩踏み出せるかもって

亮太郎　だから…あやねさんが文化祭でプラネタリウムをやろうって言い出したとき、皆で手伝おうって決めたんです。ほら、あの子は空ばっかり見上げてて、地に足がついてないから。

ミホ　…いいなあ。なんかお姫様みたいだ。

亮太郎　あ、こんな話をしたことは、あやねさんにはナイショにしてください。その、部長として

の威厳ってものがありますから。
ミホ　そんなの最初からないでしょ。…私もだけど。
亮太郎　そんなことないですよ。放送部の女王様です
まさき　うんうん。たくさんの惑星を従えた、太陽みたいに見えます
ミホ　だから！　…全然そんなことないよ。外から見てるとわかんないだろうけど。自分から何もしてない。皆に持ち上げられた通りに、先生の言う通りに、できのいい部長さんをやってきただけだもん。
亮太郎　じゃ古嶋さんは太陽じゃなくて、月なんですかね。ちょっと裏側が見えた気がしますよ
ミホ　んー。…いいこと言うじゃん。そのセンスでプラネタリウムの原稿、書いてくれたらよかったのにね。
亮太郎　それを言われると…
ミホ　でも、本当にそうなんだ。私、裏側を見られるのが怖くて、嫌われたくなくて、隠すのに一生懸命だった。放送部のみんなにも。でも、ちょっと見せる勇気が出たよ。ありがとう。
亮太郎　いやいや、そんな…
ミホ　それじゃ、あやねさんに会ってくるね。屋上？
亮太郎　そうです。…あやねさんのプラネタリウム、よろしくお願いしますね。
ミホ　…うん。みんなにも言ってみる。がんばりましょう。

ミホ、去る。ノゾミ、アツキ、マツ、ユウマ登場。

ノゾミ　ほら、お前ら。早く行けよ。他に入れる企画なかったんだろ。しっかり謝れよ
ユウマ　わかってますよ、もう…
ユ・マ　せーの、失礼します！
亮太郎　何の用ですか。もうプラネタリウムの機材なら…
ユ・マ　ごめん！
マツ　俺たち本当に投影機 壊そうなんてしてなかったんだ。
ユウマ　でも、お前らが頑張って作った機械を勝手にいじろうとして悪かった
マツ　そのよかったらプラネタリウム手伝わせてくれよ。
ユウマ　じゃあな！

逃げるように去っていくアツキ、マツ、ユウマ。

ノゾミ　おい！…あのさ、俺たち色々酷い事しちゃったけど、何でも手伝うから。ＢＧＭとか入れるなら、俺がカスタネットやるよ
亮太郎　はあ？
ノゾミ　あーいや、とにかく、よろしくな！（逃げ去る）
たく　何だったんでしょう

まさき　変な奴
虹すけ　でも思ったよりいい人たちみたいですね、放送部って
古川T　ああ、青春だなぁ
天文部　先生〜！

8

屋上で一人、「星めぐりの歌」をハーモニカで吹いているあやね。そこに向かおうとするミホを、ユイ・ナナミが呼び止める。

ナナミ　ねえ、部長。どこいくのー
ミホ　屋上。あやねさんと話をしてくる
ユイ　投影機、借りてきたんだよね
ミホ　…
ナナミ　ファッションショー、できそう？
ミホ　やらない。私、プラネタリウム手伝うことにした
ユイ　…ちょっと、本当に？
ナナミ　ありえないんだけど
ミホ　さっき、天文部から星のことを聞いてきたの。　私はその話、面白いと思った。だから天文部と一緒にやりたいの。
ユイ　…みんなファッションショーの方を楽しみにしてたんだけど。
ナナミ　ミホは裏切るつもり？
ミホ　そうよ。私は天文部とプラネタリウム、やるから。手伝ってくれるよね？
ユイ　なんで？
ナナミ　天文部とあんまりべたべたしないでくれない？
ユイ　ミホがオタクになっちゃったら、私たちもそう見られるんだから
ナナミ　あんな連中と一緒にされるの超困る！
ユイ　みんな星なんて興味ないよ
ミホ　やってみないとわかんないよ。言葉にしなきゃ伝わらないんだもの。
私達放送部でしょう。私達が話すのをやめたら、伝わらないまま、わかりあえないまま終わっちゃうんだよ。…ね、やろうよ
ユイ　勝手にすれば？白い目で見られるのはミホだけにしてよね
ミホ　どう見られたっていいじゃない
ナナミ　そう言えるのはミホが美人で、話すのも上手いからでしょ
ユイ　私たちは取り柄がないから、目立つ子についてくしかないの。悪い？

ミホ　そんな
ナナミ　そうそう、私たちは小さな星。ミホは太陽。
ユイ　ミホが太陽なら、私たちは地球とか金星とか、そういう星よ。ミホのおまけでくっついて回ってるだけ
ナナミ　うわ、なんか私たちまで天文部のが移ってない？
ユイ　うわ、ほんとだ。やだー
ミホ　そんな言い方しないでよ。あのね、星だって意外と面白いんだよ
ナナミ　いいよ、聞きたくないから。もう好きにすれば。
ユイ　おまけの私たちのことなんて気にしないで、勝手にやってよ
ナナミ　じゃあね
ミホ　ちょっとあんたたちそれでも放送部!?　聞いてくれる人がいなかったら放送なんて全部無駄じゃないの!?　話すほうが聞かなくてどうするのよ！
ユイ　そうよ、無駄よ。　頑張るだけ無駄、なにをしたって報われない。
ナナミ　私たちが何をしても、みんなミホしか見てないもの
ユイ　だからやらない。やりたくないの。凡人の私には、無駄なことしてる余裕なんてないからね

陰で聞いていたサホが割り込んでくる。

サホ　そんなことない。無駄なんかじゃないよ。
誰にも見たり聞いたりしてもらえなくても、気付いてもらえなくても、私は私の声を聞いてるもの。私は自分に胸を張りたい。だからやりかけたことはやり通したいの
ナナミ　だから何よ。もうやめてよ！　いつもいつも、原稿読んでるみたいなきれいごとばっかり言わないでよ！
ミホ　…その原稿、いつも書いてくれてたでしょ、ナナミもユイも。放送部のみんなで。
…ごめん。みんなのための部長のつもりだけど、どっかで間違っちゃったかな。
ユイ　…。あのさ
ミホ　天文部が言ってた。星とか月は、人に見せるために光ってるんじゃないって。
でもね、その光で、星を頼りにして海を渡ったり、月の満ち欠けからカレンダーを作ったりしてヒトは生きてきたんだって。ヒトは星の光のおかげでここまでこれたんだって。
ナナミ　…だから、なんだって、いうのよ
ミホ　私はそういうすごいものを、伝えたい。私自身が光るんじゃないの。私はそういう、凄いものの光を反射するだけ。うん、私は、太陽じゃなくて、月なんだ。
ユイ　言いたいことはわかったよ。うん、わかった。でも、ミホはそれでいいの。見てもらえなくても、わかってもらえなくても、それでも、いいの？
ミホ　うん、やりたいの
ミホ　放送で言ってた、ガリレオの話、覚えてる？　自分がどうしても言いたいことをみつけて、

誰にもわかってもらえないかもしれないけど、伝えたいことがあったときにさ。目の前にマイクがあったら、ユイ、我慢できる？

ユイ　しない

ミホ　そうよね

笑いあう3人。放送部内の凝ったハイタッチ。ナナミは混ざらない。

ミホ　…私、自分のこと、月って言ったけどさ。裏側には光が届かないから。暗くなったり不安になったりしたけど。…今まで、支えてくれて嬉しかったよ。ありがと。

ナナミ　勝手にしなさいよ、ばかっ！

9

ミホ　こんばんは。

あやね　…こんばんは。

ミホ　ハーモニカ、上手なんだね

あやね　ハーモニカは世界で初めて宇宙に行った楽器なんですよ。宇宙飛行士が持っていったんです

ミホ　そうなんだ。星、見える？　宵の明星って、どれ？

あやね　…あそこです。月の右側、あのビルからまっすぐ上にいったところ

ミホ　ふうん、あの星なんだ。

あやね　わかんない人には面白くないですよね、星って。小さな光の粒ですから

ミホ　そんなことはないよっ、うん。

あやね　中学は、もっと田舎だったんです。私。それで、星が見えない空って寂しいなって。だから、プラネタリウムでみんなにも見せてあげたかったんです。

ミホ　そっか。今ハーモニカで吹いてたの、素敵な曲だね。上手。

あやね　そんなにうまくないです。…星めぐりの歌っていうんです。

ミホ　それ、もらった原稿にもあったね。あれ、曲がついてたんだ。

あやね　そうなんです。作詞作曲、宮沢賢治なんですよ

ミホ　もう一回、リクエストしていい？

照れながらハーモニカを吹くあやね。放送部員のサホとユイが現れ、聞いている。別方向からナナミも舞台に。少し離れたところからユウキがナナミを見ている。演奏を止めたあやねが語りだす。

あやね　あの、私。本当は。プラネタリウムなんて、本当に作ってもらえるなんて全然思ってなかったんです。できたらいいなって、夢を話したら、みんな本気にして、作ってくれるって。嬉しかったんですけど、怖くて。部室にも、みんなの顔を見るのが、その。居づらくって。

ミホ　ね、やっぱりやろう。プラネタリウム。

あやね　いいんですか。ファッションショーのほうも、いろんな人が

ユイ　（近づき、声をかける）大丈夫だよ、やろう。私たち放送部におまかせ。私たちも、あんたの見てみたいっていう星空、見たくなったから。

ミホ　うん。聞いた人に、どれだけどんな風に伝わるかわかんないけど。やってみよう。やってみなきゃわかんないんだし

あやね　ボイジャーのメッセージプレートみたいですね

ミホ　ボイジャー？

あやね　アメリカが打ち上げた無人の宇宙船です。太陽系を出て、ずっと宇宙を旅して、もしかしたら宇宙人に会えるかもしれないからって、人類からのメッセージを積んでるんですよ。

両方の部員が両袖から現れプラネタリウムの準備をはじめる。

ミホ　そうなんだ。あやねさん、詳しいんだね

あやね　宇宙オタクですから

ミホ　そうじゃなくって！　素敵だと思うよ。ね、もっと聞かせて。

あやね　一緒にプラネタリウムのナレーション、考えよう

はい。…お願いします。

ななみが目を背け、ユウキと目が合う。

ナナミ　何よ。

亮太郎　これ。あやねさんが書いた原稿（渡す）。

まさき　あと、使えそうな資料、いろいろ（掲げて見せる）。

ナナミ　なにこれ。（一番上の資料の表紙を見て）ただの星の写真じゃない。

まさき　宇宙飛行士が初めて月に行ったときの写真だよ。

ナナミ　…ふぅん

ユウキ　いいこと書いてあるよ。

亮太郎　そのときの有名な言葉、これは…

ナナミ　知ってるわよそれくらい。馬鹿にしないでよね

亮太郎　これは小さな一歩だけれど、…

ユウキ　放送部にとっては偉大な一歩だ。

ナナミ　くさ。かっこわる。

ユウキ　（照れて）いこうぜ

ナナミ　わかったわよ（まさきの持っている写真を取り、まさきと少し笑う）

暗転

ＥＤ

開演のブザー。舞台センターにミホとあやねが並んで立つ。舞台各所に数人ずつ配置。
それぞれがＬＥＤ球を手に点灯。星めぐりの歌をＢＧＭに。

ミホ　本日は滝川高校天文部と放送部の合同企画、文化祭プラネタリウムへようこそ！これより
ひとときの間、めくるめく星星の海への旅にご案内いたします。ご案内を務めますのは、
放送部部長、古嶋ミホと

あやね　天文部の早川あやねです。今流れている音楽は、宮沢賢治作詞作曲の、星めぐりの歌。
今夜は、この星めぐりの歌に歌われている星座をご紹介いたします。

ミホ　それでは学校から見える星空を、どうぞご覧下さい！

サホ　まずはこちらが南の空。赤く輝く星がさそり座のアンタレス。

ヒ・てマ・たわし座の中で明るく輝くのが、一等星のアルタイル。

虹・のナ・ユ　白鳥座のデネブです！

亮・ユユ・か　こと座のベガでーす！　３つ揃って、有名な夏の大三角でーす！

ミホ　夏には見えませんが、私たちが冬の大三角です！　子犬座のプロキオン！
おおいぬ座の、シリウス！
オリオン座のベテルギウスです！
それでは、星座の由来などを、歌に出て来る順番に紹介していきたいと思います！
まずはさそり座からお願いしまーす。

サイレント、マイムで説明。短く。他のチームも順番に
あやねとミホが少し動いて観客の目を引くように会話

あやね　ミホ先輩。

ミホ　ん、なに

あやね　ありがとうございました、いろいろ

ミホ　ううううん。あやねさんが伝えたかった星の美しさ、今日、伝えよう！　私たちみんなが
ついてるから。

あやね　はい！

まさき　北の空の大熊座です。北斗七星と言った方が有名です。

ミホ　ほら、私達の番、来るよ。
あやね　はい。

ミホ　北斗七星の頭を伸ばしたところ。地球の北極の真上、真北にあるのが、小熊座の北極星です。夜空の星はみんな、この星を中心にして回っています。では最後に、この星を探すときのもうひとつの手がかりになる星座。アンドロメダ座の紹介です。

あやね　北極星のすぐ近くを回る、アンドロメダ座です。アンドロメダ座は、星よりも、アンドロメダ銀河が有名です。この銀河は、私達の住む地球のある銀河から、２４０万光年も離れたところにあります。でも、銀河と銀河は近づきあっていて、今から４０億年後には大きなひとつの銀河になるそうです。
そのときに人類がまだ地球にいたら、誰かと出会えるかも、友達になれるかもしれません。

ミホ　ながらくおつきあいいただいてありがとうございました。
最後に、遠い宇宙の誰かにむけて、地球から打ち上げられた無人の宇宙船ボイジャーに積み込まれた、メッセージを紹介します。

ユイ　「これは小さな、遠い世界からのプレゼントで、
亮太郎　われわれの音、
マツ　科学
サホ　画像
ユウキ　音楽
ヒヨリ　考え
ノゾミ　感じ方を
たく　表したものです
ミホ　私たちの死後も、本記録だけは生き延び、
あやね　皆さんの元に届くことで、
全員　皆さんの想像の中に再び私たちがよみがえることができれば幸いです。」

幕